

肩学

臨床の「なぜ」とその追究

井樋栄二 ● 著

〔評者〕 今井晋二 (滋賀医大教授・整形外科学)

本書には2021年3月に東北大学大学院整形外科分野教授を退官された井樋栄二先生が、これまでの40年間で蓄積された肩関節の機能と解剖、特にバイオメカニクスを中心とした基礎医学的、臨床医学的研究の成果が凝縮されている。

本書は、一般的な臨床医学書と同じく「肩関節の診察」から始まり「肩関節の主な疾患」へと続く。しかし、その中身を少しでも読み進むと、井樋先生がいかに広範な分野に興味をお持ちで、かつ医学的好奇心に満ちてこれまでの諸問題に挑んでこられたかが、まるで映画のシナリオを読むかのように次々と現れてくる。

このような物語性は、一般的な医学的成書からは、通常感じることとはない。肩関節に関する諸問題と考察が、常に自身の「なぜ？」から始まり、必ず臨床的意義に到達する基礎研究テーマを構築し解決してこられた、井樋先生の臨床医学に対する真摯な態度に基づいているからである。

一度、試しに本書を反対に「肩関節の主な疾患」から「肩関節の診察」へ読んでみると、やはり先に感じられたシナリオ性はあまり感じられない。通常、一般的な医学的成書における解剖学や生理学などの基礎医学的項目と臨床医学的項目の間には、相交通性はあっても物語性は感じられない。これは井樋先生が40年間の臨床医と

してのご経験の中で悩んでは、順番に解決してこられた歴史が本書には、積み重ねられているためである。

本書の特徴である肩関節の基礎医学、特にバイオメカニクスを中心とした考察から臨床医学的問題の解決は、あまたある井樋先生の研究成果の中でも肩不安定性と反復性肩関節脱臼のところでその真骨頂に達する。井樋先生の「なぜ？」は、「関節窩の3分の1が失われていると骨移植を要する」と、これまで誰も疑わず、それまでの臨床医学成書にも堂々と記載されていた「常識」への問いから始まり、その物語は続く。

井樋先生の肩不安定性に関する医学的好奇心は、数々のバイオメカニクスを中心とした基礎医学的考察から手術成績を問う実証医学の方向へ、また肩脱臼後の保存療法の予後を問う疫学医学の方向へと広がる。その後、どのようにつながるのか？と少々気をもんで読み進むと、「Glenoid track」というこれまでの常識を覆す概念で一大フィナーレを迎える。

誤解のないように申し添えるが、本書の物語性は医学的成書としてその完璧性を損なうものではなく、むしろ、それは1ページ目から最終ページまで、まるで小説を読み進むかのように刺激され続ける好奇心に「しおり」を挟んで静止しなければなら



ないような感動と期待を説明するために用いている言葉にすぎない。

本書によって肩関節外科の全ての基礎および臨床の知見をリニューアルし、総括することが可能である。加えて本書は肩関節外科や整形外科の大枠を越え、全ての臨床医に対してあらためて問われるべき知的好奇心と論理的な考え方、そしておそらく何よりも大切な患者への向き合い方を教えてくれる。

本書を読み終わり、わが身を思い起こせば「穴があつたら入りたい」気持ちに陥るが、井樋先生の後進若手医師への激励を、自分への叱咤と思い、あえて分不相応にも書評を書かせていただいた。肩関節のレントゲン一枚を見ても「なぜこのように見えるのだろう」との初心を井樋先生が教えてくださることを、これから本書を読まれるだろう皆さまと共有したいがためである。

B5・208頁

2021年2月

定価：本体9,000円＋税

[ISBN978-4-260-04354-0]

医学書院刊